私の『夢』の実現

「夢を持つこと」そして「夢の実現に向けて前進し続けること」これこそが、生きていく原動力、と繰り返し述べてまいりました。今、私が自分の胸の中で温めていて、その実現に向けてがむしゃらに取り組んでいる「夢」についてお話しします。

私の夢は、最先端技術を導入したがんの研究・治療施設を作ることと、国際社会で活躍できて世界に誇ることのできる青少年を育成する学校を作ることです。

言い換えると、新日本科学が社の使命として取り組んでいる「創薬と医療技術の向上を支援し、人類を苦痛から解放する事」をどこまでも愚直なまでに推し進め、また、次世代以降を担う若く無限の可能性を秘めた青少年を「人財」として育むことにより、より良い、より幸福な社会作りに貢献していきたい、ということにつながります。

■『メディポリス指宿』事業

弊社は、２００４年7月に厚生年金基金からグリーンピア指宿跡地を落札し、同年12月10日に引渡しを受けました。落札後に、地元の有識者にお願いし、活用協議会を発足させ、弊社の企業理念に添った形で、また、社会的利益を優先した方向性にもとづいて、具体的な活用方法を検討しました。

「【光】を放つものを作りたい……」

これを成功の鍵と考えて、弊社の企業ミッションである「創薬」と「医療向上」という2つの制約条件のキーワードを考慮して検討しました。

具体的には、

『1．予防医学』

『2．創薬研究』

『3．先端医療』

『4．こころのケア』

という4本の主柱を立てました。

『予防医学』は、食事、温泉、海と海産物、漢方と鍼灸、お茶と水、スポーツ等、予防的な観点から効果があるものを事業と組み合わせていきます。

『創薬研究』は、弊社の主業務である前臨床研究から臨床研究に直接関わるものです。

『先端医療』、これには1番注力していきたいと考えています。がんの超早期発見と早期の根本治療を行います。がんの超早期発見には、ご存知のようにＰＥＴがありますが、患者さんの視点からは、がんが見つかっただけでは意味がありません。がんが治らなければいけないのです。現在は、がんの治療法として、次の3つがあります。

1つ目は、外科的治療です。
悪いところを切り取ってしまう手術です。
2つ目は、抗がん剤です。
化学療法あるいは免疫療法として知られています。
3つ目は、放射線療法です。
放射線療法は、アメリカでは50％以上の割合でがん患者に単独あるいは複合的な治療法として選択されています。一方、日本では2割にも満たない程度でしか選択されていません。放射線療法はがんの種類によってはとても効果があります。しかしながら、日本は世界で唯一の被爆国であるがゆえに、放射線自体に国民が強い精神的アレルギー反応を持っています。それで、放射線療法は認知度が低く、あまり使われていないのが現状と思われますが、私は、その中で粒子線治療という最新の治療法に着目しました。
粒子線治療は、従来の放射線療法（コバルト療法や、ラジウム線やガンマー線治療など）と違い、陽子（プロトン）や炭素イオンなどの粒子を加速器で光の速度近くまで加速して、がん病巣に狙いを定めて、そこにビームを当てるのです。この特徴は、身体の深部にあるがん病巣にほぼ限局してエネルギーを集中させることができるということです。これは、ブラッグ博士が見つけたのでブラッグピークとも言われています。正常の組織にはほとんど影響を与えずに、がん病巣に限局してピンポイントの治療ができる夢のような装置です。
従来のコバルト療法やX線治療ですと、ビームを発した場所、すなわち、正常な皮膚表面に最も高いエネルギーが発生してしまい、さらに、深部のがん病巣に届くまでの正常組織にもエネルギーが伝わるために、そこに副作用が発現してしまいます。言い換えますと、従来の放射線照射では深部組織にあるがん病巣を叩くにはかなり強い線量を患部に当てる必要があったのです。ですから、どうしても副作用が発現していました。
ところが、粒子線は、がん病巣を狙ってそこの部分に限局して最大のエネルギーを集中させることができるという点で大きな違いがあります。しかも、誤差が1ｍｍ以内というきわめて高い精度で照射することができます。
粒子線治療の効果は、多くの治験結果からその有効性が明らかになってきました。前立腺がん、肺がん、肝臓がんの症例でも非常に高い局所効果……コントロール効果が確認されています。
粒子線装置自体は、かなり大型の装置で高価です。陽子線装置で約40億円、炭素線装置は80億円くらいします。特殊な構造の建物が必要で、この建設にも20～50億円程度が必要です。しかし、がんに苦しむ患者さんにとって、粒子線治療の確立と普及は光明であり、その点で「光を放つものを作りたい」という私たちの志向と合致します。
これが完成しますと、日本国内に限らず、アジアを主体として海外からも多くの患者さんが鹿児島に来られるかと思います。実際に、私は中国上海において、現地の大学附属病院の幹部とも会い、今後の提携を模索しています。

■国際人を育てる『学校』

『人財育成』も私が終生追い続ける夢であります。

私が理想とするのは、社会に大きく貢献できる国際人を育成することを理念とした学校です。

ここでは、日本国内からだけではなく、広く海外からも生徒を受け入れ、彼らは、欧米の超一流大学を目指すという、特別な教育を行うスクールです。

理想は、英語を主体に話す多国籍の生徒が集まり、異なった文化、風習、宗教が渾然一体となります。そのようなボーダレスの環境で、生徒たちは相互理解のために思いやりのこころを身につけ、さまざまな観点から物事を観察し判断する力を養います。そして、多くの国に友人という人脈を作るのです。無味乾燥な暗記一辺倒の教育ではなく、日本古来の「武士道精神」に則り、『実践・体得』型の教育を行います。生徒自らが主体的に、知と徳に対する向上心を持って、自己の能力の開発に励むことができるような環境作りを目指したいと考えております。

その中から、国境や時差をものともしない、国際感覚豊かなコスモポリタンが多数輩出されることが私の切なる望みであります。